



アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ「エプサ」 EPSA for Africa (Enhanced Private Sector Assistance for Africa)

- 2005年6月、アフリカ開発銀行グループと日本政府は、アフリカの民間セクター開発に関する共同イニシアティブ「EPSA for Africa」を発表した。
- 同イニシアティブは、2005年7月のG8グレンイーグルス・サミットにおいても、我が国のアフリカ支援に関する小泉総理のイニシアティブの中核の一つとして推進していく旨、表明された。

EPSA for Africa の概要

目的：アフリカの民間セクター開発を包括的に支援

主要5分野：投資環境整備、金融セクター強化、経済・社会インフラ整備、中小零細企業支援、貿易・直投促進

融 資

民間セクター育成・投資基盤整備等支援のための融資の拡充

- ・ アフリカ開発銀行グループと国際協力銀行との協調融資促進スキーム等を導入。アフリカ開発銀行の知見を活かして資金供給の迅速化・効率化を図り、民間セクター開発を支援。
- ・ 日本から、融資拡充の財源として、5年間で10億ドルを上限として円借款を供与。
- ・ 融資方法には、①政府及び政府機関等に対するアフリカ開発銀行/基金との協調融資（ソブリン向けの融資）、②アフリカ開発銀行の民間セクター向けノンソブリン業務に対する円借款（ノンソブリン向けの融資）、の2つがある。

技術支援 無償援助

信託基金（FAPA: Fund for African Private-Sector Assistance）

- ・ アフリカ開発銀行グループに、中小零細企業育成、金融機関の能力向上、公共部門のガバナンス強化のための技術支援等を実施する基金を設置。
- ・ 資金規模は2億ドルを目標。日本は、5年間で2割相当の貢献をする用意があり、その一環として、基金立上げ時に2,000万ドルを拠出。